

## Weekend 2014 概要 (中間報告)

2014年度はRSCDS東京ブランチ創立30周年の記念すべき年に当たります。

そこで Weekend 2014 の合宿は、海外から招聘する講師とミュージシャンを加えてより充実を図り、会員にとって有意義で楽しいものとするため、運営委員会を中心に準備を進めています。

今回のブランチレターではこれまでに決まった事項と検討中事項についてその概要を報告し、会員の期待に応えることにします。

\*お誘い合わせの上多数のご参加をお待ちいたします。他ブランチの方々も大歓迎です。

### 新たなる感動 が Weekend 2014 のテーマ

ダンサーは Scottish Country Dance を踊って何かに感動したからこのダンスを踊り続けています。

感動の要素は多岐にわたります。動作が面白く楽しい、ステップが優雅で美しい、音楽のスコテッシュ・アクセントが気持ち良くて踊らずにはいられない、ダンサーのリードがフレンドリーで暖かい、講師のティーチングが上手で分かり易いなど、ダンサーの経験や置かれている環境によって感動の要素は異なってきます。

感動の全ての要素と環境を全部揃えることは困難ですが、少なくとも経験豊富な講師と優れたミュージシャンを招聘し、素晴らしい会場を準備することにより新たなる感動を得る機会を増やすことをめざしました。

### 都心から専用バスで会場の水上温泉ホテル聚楽へ

イベント会場を地方とした場合、往復の移動が問題となります。そこで都心の複数の場所から専用バスを準備することでこれを解消することにしました。

### 開催日程概要

1日目: 5月23日(金)

10:00 都心の指定場所(東京駅・新宿駅周辺、千葉駅周辺も検討中)から専用バスで出発

13:30 会場の水上温泉ホテル聚楽へ到着

2日目: 5月24日(土)

講習等の行事継続

3日目: 5月25日(日)

12:00 会場を専用バスで出発

15:20 都心の指定場所(東京駅・新宿駅周辺、千葉駅周辺も検討中)へ到着

### コースとクラスの設定

複数コース設定の可能性について検討しています。

(なお、複数コースを設定する場合には更に1名の講師の追加について検討しています)

### 参加会費

検討中です。

### 決定済みの講師の紹介

#### Bill Zobel



Bill は 14 歳からダンシングを続けて来ていて、ダンスと音楽との結びつきに情熱を持っている。ダンシングとは音楽を形に表したものであるとする。Bill はブランチで教え、デモ・チームを指導し、長年にわたり RSCDS サマー・スクール・スタッフの一員を務め、世界各地のワークショップや

---

スクールで教えることを楽しみにして来た。また 1988 年に Muriel と共にレコーディングを開始して以来、Scotscores の音響エンジニアも務めて来た。

### Keith B. Smith



スコティッシュ・フィドラー Keith Smith は、演奏活動、レコーディング、スコティッシュ・フィドル音楽の指導の分野で国際的に良く知られている。彼はスコティッシュ・ピアニスト Muriel Johnstone と共演して数々のスコティッシュ・カントリー・ダンスのレコーディングを行なっている ([www.scotscores.com](http://www.scotscores.com))。またシンガーソングライターの John Barden ([www.john-baden.de](http://www.john-baden.de)) やスコティッシュ・バンド Hoogie ([www.hoogie.co.uk](http://www.hoogie.co.uk)) とも共演している。スコットランド西岸、Ardnamurch 在住。

### Muriel Johnstone



Muriel は生涯にわたりスコティッシュ・ミュージックおよびダンスに携わって来た。また RSCDS とも長年の繋がりを持ち続けている。彼女は演奏、伴奏、バンド活動、指導などにおいて世界的に有名である。自身の Scotscores レーベル ([www.scotscores.com](http://www.scotscores.com)) から 30 枚以上のアルバムを発表し、他の多くのレコーディングにも貢献して来た。またスコティッシュ・ジャンルの沢山の曲や、数えきれないほどのダンシング・チューンを作曲している。スコットランド、パース州在住。

■

---

## 今後の行事予定

### 秋の Social Dancing

日時：2013 年 11 月 30 日 (土) 13:30~16:30 会費：1,000 円 (ただし、非会員は 1,200 円)  
場所：赤羽会館 4F ホール TEL:03-3824-5801 演奏：青山るりさん (一部 CD)  
MC：近藤幸子さんと中田多鶴子さん

\* 今年度は RSCDS 90 周年を記念して<聖アンドルーの日>に開催する。

### プログラム

1	Hooper's Jig	J	MMM
2	The Castle of Mey	R	Diamond Jubilee Book
3	Autumn in Appin	S	Book 31
4	Pelorus Jack	J	Book 41
5	The Saltire Society Reel	R	RSCDS-L
6	Linnea's Strathspey	S	Book 47
7	Catch the Wind	H	Book 45
8	Bill Clement MBE	J	Book 47
9	Flight to Melbourne	R	Book 47

10	MacDonald of the Isles	S	D. Haynes
11	Inchmickery	J	R. Goldring
12	Happy Returns	R	MMM
13	Bruce's Men	S	Scotia
14	Follow Me Home	J	Book 38
15	The Reel of the Royal Scots	R	RSCDS-L

### New Year Dance 2014

日時：2014年1月13日（月・祝）13：00～16：30 会費：1,500円（ただし、非会員は1,700円）

場所：赤羽会館 4Fホール TEL:03-3824-5801

ミュージシャン：小海弘子さん（ピアノ） 大森ヒデノリさん（フィドル）

MC：石田由美さん・岡玲子さん・工藤祐享さん・三木眞理さん

#### プログラム

1	The White Cockade	R	Book 5
2	Light and Airy	J	Book 4
3	Adieu Mon Ami	S	Book 24
4	The Kissing Bridge	R	Book 47
5	Todlen Hame	J	Book 16
6	West's Hornpipe 4c	H	RSCDS1965
7	Argyll Strathspey	S	Book 35
8	Spiffin' SQ(5c)	J	Quarrie
9	The Hollin Buss	J	Book 24
10	Wisp of Thistle	S	Book 37
11	Welcome to Ayr	J	Book 47
12	Miss Johnstone of Ardrossan	R	R.Goldring
13	Memories of Mary Ann	S	Book 47
14	The Music Makars	R	Book 33
15	The Silver Tassie	S	Leaflet
16	Miss Allie Anderson	J	Leaflet
17	The Deil Amang the Tailors	R	Book 14

### Weekend 2014

1 ページで概要を説明しています。 ■

### JEC 2016 春(予定)についてのお尋ね

東京・東海・埼玉 3 ブランチでは、日本において行われる次回のティチャー資格試験について検討を始めております。つきましては JEC 2016 春(予定)が実施される場合、受験を希望する意思をお持ちの方の把握を行いたいと思います。受験を予定されている方は 12 月 15 日（日）迄にセクレタリ尾崎淳子宛お申し出ください。

T/F: 04-7152-5582

Email:junchi@ka8.koalanet.ne.jp ■

#### 次期運営委員候補者募集のお願い

現在のブランチ運営委員の任期は 2014 年 5 月以降開催の年次総会を以て満了となります。委員会では次期運営委員候補者を募っております。歴史ある東京ブランチの運営にぜひあなたのお力

---

をお貸してください。自薦・他薦いずれでも結構です。候補者のお名前を各運営委員までお知らせください。■

### ご協力ありがとうございます

青木幸子さんが、3 ブランチ合同委員会・Unit 1 筆記試験などの会場として大久保地域センターの確保を引き受けて下さっています。来年以降は赤羽会館の長期改修工事も予定されていて、さらにご助力をお願いする機会が増えるかも知れません。どうぞよろしく願いいたします。■

### Book 47 講習会模様

9月28日(土)午後、文京区立駒込地域活動センターにおいて鳥山豊喜講師により Book47 のダンスの講習会が行われました。

参加者は63名(会員56名、非会員7名)で予定通りの講習が行われました。講師をお引き受けいただいた鳥山豊喜さんに感謝申し上げます。■

### Unit 1 試験終了のご報告

3 ブランチ合同による2013年秋のUnit 1 試験は、10月12日(土)大久保地域センターにて実施され無事終了いたしました。今回の担当は東京ブランチが務め、3名の受験者(東京ブランチより2名・東海ブランチより1名)がありました。実施に際し、JEC 委員および各ブランチ委員の多大なご支援ご助力を頂きましたことを心よりお礼申し上げます。■

---

## 運営委員会報告

### 2013年8月3日

1. ブランチ・クラスの参加者減少を憂慮し、ティチャー全員にアンケート実施を検討する。
2. Book 47 講習会講師は鳥山さんが担当、サポートする講師が必要な場合は鳥山さんからの依頼とする。音源はCD使用。
3. Social Dancing 2013 のミュージシャンは青山るりさん、MCは近藤幸子さん・中田多鶴子さんに依頼する。プログラムは9月委員会までに決定する。
4. 東京ブランチホームページ担当の三木さんより来年3月迄で退任したい旨の申出。後任をブランチ・レターで公募する。
5. 赤羽会館は2014.4.1から2015.4.30迄改修工事で使用不可。今後の行事会場確保を検討した。
6. 駒込地域センター・大久保地域センター・荏原第三地域センター(品川区戸越)など。

### 2013年9月7日

1. Book 47 講習会はNote およびダイアグラムを当日参加者に配布。参加費はブランチに拘らずRSCDS会員1000円、非会員1200円とする。

- 鳥山さんによるBook 47 前文および序文日本語訳はブランチ・レターNo. 96に掲載する。
2. Social Dancing 2013 のプログラムを決定。10月発送ブランチ・ニュースに同封する。
3. New Year Dance 2014 のミュージシャンは小海弘子さん・大森ヒデノリさんに依頼する。プログラムは10月委員会で検討し決定する。11月発送ブランチ・ニュースに同封する。
4. ブランチ・クラスについてはティチャー宛協力依頼文書を来年度クラス担当依頼(12月発送)に同封する予定。クラス状況把握のため過去2年間の各クラス参加者人数を調べる。
5. 本部から問合せの2014年度Scroll of Honour 推薦の有無を検討(締切り2014.3.31)。マガジンの”From around the World”はNo.18より旧来に戻し小山かおるさんが通信員を担当される。

### 2013年9月28日

1. New Year Dance 2014 のミュージシャンは小海さん・大森さん承諾済。プログラムにインターメディアイトおよびビギナーズ・クラスで踊ったダンスとBook 47 ダンスを含める方向で10月中旬迄に決定する。MCは石田由美・

- 岡玲子・工藤祐亨・三木眞理さんに依頼する。  
プログラムは11月発送のランチ・ニュースに同封予定。
2. 11月ゼネラルクラスは童夢館が学校行事のため使用不可、他会場も確保出来ず休会とする。若松講師には代替えとして2月または3月クラス担当を打診。
  3. 9月8日開催の3ランチ合同会議報告。ブック講習会およびランチ・クラスの参加費は今後所属ランチを問わずRSCDS会員として一律にする。ランチ発送物はランチ・ニュースも含めて全て他ランチへ送付

- する。
4. 本部関連：2013年AGM代議員はBrian HarryとBet Nairnに依頼済。来年度年会費を£2値上げする動議がAGMに出される予定。反対の意思表示を代議員に通知する。Youth Services CommitteeのRoy Baneから東京ランチ所属ティーチャーの登録依頼があり53名のデータを提出した。
  5. Book 49ダンスは9月末にランチ公募を締め切り、鳥山さんより応募のダンスを無審査で本部へ提出する。■

## ランチクラスで取り上げたダンス

### 1. ビギナーズ クラス

6月24日 講師 境 雅子

1. Lady Home's Jig (J32) MMM
2. West's Hornpipe (R32) RSCDS 1965
3. The Ennismore Strathspey (S32) Dix
4. S-Locomotion (S32) Book 41
5. The Wild Geese (J32) Book 24
6. The Dundee Whaler (S32) Clowes

7月8日 講師 篠塚 昌子

1. Galloway House (R32) Gr
2. Keppoch's Rant (S32) Book 17
3. Well Done Jack (J32) Book 29

7月22日 講師 篠塚 昌子

1. Rosnor Abbey (J40) MMM
2. Lady Lucy Ramsay (S32) MMM
3. The Barmkin (R88- SQ) Goldring

8月12日 講師 篠塚 昌子

1. Hedwig's Reel (R32) Phillips
2. Lady Glasgow (S32) MMM
3. A Trip to Bavaria (R32) Brown

8月26日 講師 篠塚 昌子

1. Miss Allie Anderson (J32) Corson
2. The Braes of Mellinish (S32) Book 25
3. The White Rabbit (R32) Boyd
4. Mr Michael Bear's Reel (R32) Gr II

9月9日 講師 篠塚 昌子

1. Largo Law (S32) MMM
2. Happy Returns (R32) MMM
3. Easy Peasy (R32) Allsop & Blair

9月23日 講師 疋田 千鶴子

1. Rosnor Abbey (J40) MMM
2. Keppoch's Rant (S32) Book 17
3. The Barmkin (R88- SQ) Goldring
4. Happy Returns (R32) MMM

10月14日 講師 鳥山 豊喜

1. Fair Donald (S32) Book 29
2. Alan J Smith (J32) Book 45

10月28日 講師 鳥山 豊喜

1. Alan J Smith (J32) Book 45
2. Ways in New Hall (R32) Book 42
3. Sugar Candie (S32) Book 26 ■

### 2. インターミディエイト クラス

7月1日 講師 星野 薫

1. Hamilton Welcome (S32-5C) Goldring
2. The Humming Bird (J32-5C) Eyres
3. Joan's Joy (J32) Morris
4. The Champagne Reel (R32) Tucker

8月5日 講師 中田 多鶴子

1. The Duran Ranger (R32) Book 13
2. Miss Emily Gordon's Jig (J32) Zobel

3. Couteraller's Rant (S32) Book 34
4. Miss Alison Rhona (S32) Gray

9月2日 講師 渡部 多美子

1. Don and Dee's Reel (R32) Queen
2. Twelfth Night Revels (J40) Zobel & Johnstone
3. Miss Catherine Allan (S32) Leaflet
4. Memories of Mary Ann (S32) Book 47

10月7日 講師 谷川 とよ

1. The Missing Turn (R32) Book 46
2. Miss Florence Adams (S32) Book 38
3. Napier's Index (J40) Book 45 ■

### 3. ゼネラルクラス

7月6日 講師 有田 深雪

1. Beach Dancer (J32) West
2. The Arita Strathspey (S32)
3. The Silver Thistle (R32) Dyson
4. Linnea's Strathspey (S32) Book 47
5. Emmett's Chase (R32) Brenchley

8月3日 講師 林 浩子

1. The Maid of the Loch (J32) Attwood
2. The Lanes of Au (R32) Book 32
3. The Wells of Swona (S32) Priddey
4. Heather Ale (S32) Priddey
5. Drive the Hot Summer Away (R32) Obata

9月7日 講師 近藤 幸子

1. Halfway Home (J32) Skelton
2. The Silver Thistle (R32) Book 44
3. The Phoenix Strathspey (S32) Cosh
4. Three and One (J32) Haynes
5. Isle of Canna (S64-SQ) Kendall

10月5日 講師 小幡 正明

1. Georgie's Jig (J32) Leaflet
2. The Old Way of Killiecrankie (R48) Leaflet
3. Big Mac (MacDonald of the Isles, 5C) (S32)  
Rigby
4. Hooper's Double Jig (J32) Brown
5. Fair As May (S40) Brackets
6. Nori's Jig (J32) Brackets ■

### 2013 年度ランチ・クラスの今後の日程及び講師

クラス名		Beginners Class		Intermediate Class		General Class	
曜日		第2・4月曜日		第1月曜日		第1土曜日	
時間		13:30 - 16:00		13:30 - 16:00		18:20 - 20:30	
2013 年	12 月	9 日・23 日	鳥山 豊喜	2 日 兼松 千奈美	7 日 小山 かおる		
2014 年	1 月	27 日	篠塚 昌子	6 日 鈴木 百代	11 日 鳥山 豊喜		
	2 月	10 日・24 日	〃	3 日 神倉 那智子	1 日 清水 豊		
	3 月	10 日・24 日	〃	3 日 長峯 真弓	1 日 若松 陽子		

### 海外情報

#### \*TAC Update August 2013

2013. 7. 26 に行なわれた TAC 地域レブ会議の報告。  
内容に関するお問合せはセクレタリ尾崎まで  
(junchi@ka8.koalanet.ne.jp)

#### \*Aloha Winter Weekend 2014

2014. 2. 14~16 ホノルルにて開催。お問合せは

MLindsay@hawaii.rr.com またはセクレタリ尾崎  
まで (junchi@ka8.koalanet.ne.jp)

#### \*Australian Winter School 2014

2014. 9. 28~10. 4 キャンベラにて開催。詳細は  
<http://www.rscds-canberra.org/> ■

---

鳥山豊喜さんからいただいた翻訳文を掲載します。

## Book 47 前文 ジョン・ウィルキンソン (チェアマン)

RSCDS 創立 90 年をむかえ、12 ダンスからなるこのブックを制作できたことを、会員サービス委員会はうれしく思っている。世界中の会員から提出されたダンスであり、かつ厳しい選考を経たダンスである。83 のブランチ、約 2,000 人のダンサーがその評価と選定に参画してくれたことはまことによるこぼしい。

また、このブックを制作するため、印刷にいたるまでいろいろなステージで手伝ってくれたみなさんに感謝している。制作には多くのプロセスが

あり、多大な時間とエネルギー、高度の専門的知識を要する。ダンスの説明文にあいまいさがあってはならず、こんにちの用語集にそったものでなければならぬ。音楽の選定、編曲もしなければならぬ。表紙のデザインも必要だし、本文の割り付け、校正もしかりである。かかわったみなさんに感謝している。

どうかこのブックのダンスを楽しんでいただきたい。

## Book 47 序文 アレスター・マクファジェン (会長)

1923 年秋、ミセス・イゾベル・スチュワートは、グラスゴーのよく知られた印刷会社、パターソンズ社のジェームズ・マイクル・ダイアクに会うためエアの自邸からグラスゴーに向かった。彼女の目的は、パターソンズ社の関心を、(彼女がかつて踊ったことのある) スコティッシュ・カントリー・ダンス集の出版に向けさせることにあった。ミセス・スチュワートとミス・ジーン・ミリガン (1909 年からグラスゴーで体育を教えていた) による話合いのあと、1923 年 11 月 26 日月曜日、Scottish Country Dance Society (Royal がつくのは 1951 年以降) の設立会議が開かれた。集まったのは 27 人の同志たちであった。それから 90 年、RSCDS は「ひとつの違った世界」を作り出した。それは伸長する努力の成果によるもので、とくにスコットランドの豊かで多様なトラディショナル・ダンスおよび音楽の遺産の表現力によるところが大きい。ソサエティの共同創設者、ミス・ミリガン (彼女が公言するときはスコットランドとカントリー・ダンシングの伝統にたいする気迫とプライドをとまっていた) がしばしば強調したように、スコティッシュ・カントリー・ダンシングは「スコットランドから世界への贈りもの」なのである。

RSCDS Book 47 について、これにかかわった人たちにわたしは大いに感謝しており、このブックは記念すべき年への贈りものである。その内容は世界に広がる RSCDS 会員の熱意と創造性を映し出している。

この序文を書くように依頼されたが、それは 1970 年代および 80 年代に RSCDS ブックの制作にかかわったわたし自身の思い出を呼び覚ましてくれた。当時二、三の例外はあったが、RSCDS は 1924 年以来のルールに厳格にしばられていた。それは 18 世紀から 20 世紀初頭までに手書きないし印刷された資料にもとづくダンスのみを出版する、というものであった。これは決議にも等しく、RSCDS ブック中に新しいものを入れるなどは許されなかった。この立場を守ろうということで、わたしの「若年ダンシング・デー」構想はソサエティ政策の片隅に追いやられた。新しいあるいはなじみのないダンスが押し寄せるのは、(常連間の社交性をはぐくむという) カントリー・ダンシング本来の目的をなし崩しにする、というわけである。

---

RSCDS のダンシング・スタイルに好都合の「オールド・ダンス」、その説明文を現代風にアレンジする役割は、わたしが 1975 年に出版・研究委員会に入ったときも固守されていた。この役割が本来持っている問題、それが本部の会議室の片隅に淀んでいた。一つの「オールド」ダンスを出版するかしないか、全体的には友好的な討論であったが、しばしば熱くなりながら議論した、たいへんな時間をわたしは思い出すのである。

あとから考えれば、ダンスを選ぶというこの仕組みの欠点は明らかである。だが、私の年代のダンサーたちが好むダンスの多くは、いまなおこの仕組みから生まれたダンスであり、重要なことには、それらもろもろのダンスは、暗く、もの悲しいかもしれないが、すばらしいトラディショナルなメロディ（とくにストラスペイ）をわれわれに教えてくれた。われわれは、誠実で、専心的に助言を与えてくれた多くのミュージシャンから恩恵を受けている。それらの人たちは「オールド」ダンスにふさわしい曲を探し出すために、多くの時間を費やしたのである。

ブックの内容に関して、草分け的な前任者たちがあてはめた拘束的な方針は、そういった人たちが普及させようとした伝統にたいして、まったく反対なものであった。スコットランドにおけるカントリー・ダンシングの歴史が示すように、ダンスは一つところにとどまることなく、つねに一定の変化を遂げてきた。新しいダンス要素の自由闊達な流れは、ダンス数を確実にふやし、フレッシュなアイデア、方法の取り込みを促進してきた。ゆえに、変化こそがわれわれのカントリー・ダンスが将来に生き続けるための重要事項である。RSCDS は「確保しておく」方針をとっており、かつ新しいものを印刷物のかたちで会員に提供している。

記念を祝するのは、(スコティッシュ・カントリー・ダンシングを新しい世代に確実に遺してくれた) むかしの会員を知らしめる絶好の機会であ

る。わがソサエティの形成期に必然的に多くの決定がなされ、戦略が実行された。先駆者たちはこんにちの RSCDS のかたちと目的に、すばらしい貢献をもって、消すことのできない足跡を残したのである。草創期のメンバーにとって優先すべきことは、各学校の関心を増大させ、学校にスコティッシュ・カントリー・ダンシングをとり入れてもらうことだった。当時、ダンシングを含む体操が健康に役立つことはよく理解されていた。1920年代初期に英国を襲った不況は世相を暗くしており、国の活力の減退と組み合わさっていた。そういうなかで学校における身体活動への可能性は大いに歓迎された。1924年、新しいメンバーを獲得する目的で宣伝委員会が設けられ、RSCDS のメッセージをできる限り広範囲に広報した。1926年、執行評議会は「組織化担当ティーチャー」の任命と、(おそらく) カーネギー財団の資金援助を得て、デモンストレーション・チームによるスコットランド・ツアー実施の提案を討議した。わたしの知るかぎりでは、これらの提案は一度討議されただけで、それ以上の進展はなかった。

ダンシング・スタンダードを確立することとそれを維持すること、ならびにみなが納得するスタンダードをもってカントリー・ダンスを指導するという、資格あるティーチャーを輩出させることも、当時のソサエティ幹部が取り組んだ問題であった。というわけで、評価と認証の手順が驚くような早さで作られた。現在の試験のやり方と比較して、1924年の評価手順はたいへんシンプルであった。認証の区分は二つしかなく、「Certificate A」はティーチング資格、「Certificate B」はダンシング習熟度資格であった。「Certificate A」はその後もつづいたが、「Certificate B」は1933年の試験制度変更で廃止された。もちろん現在は習熟度評価試験として復活している。1924年以来、試験手順にさまざまな変更がなされたが、わたしはペーパー・ワークの重責を担ったエグザミネー諸氏を深くねぎらうものである。また、歴代の教育訓練委員会委員長とその委員に謝意を表す。その人たちは認証手順を生み出すため、最新の教育方針



---

をもって努力と時間をささげたのである。

カントリー・ダンスを含むソーシャル・ダンシングの長い歴史は、多くの要素がダンシング・スタイルの発達過程に絶えず影響を及ぼしたことを示している。われわれは、いまやその踊り方がただちに認識でき、世界中に広まった舞踊スタイルについて創立者たちに恩を受けている。RSCDS が確立したスタイルとは、三つの S、すなわち Sprightly 活発な「skip change of Step」、Springing はずむ「pas de Basque」、Stately 堂々とした「strathspey steps」である。われわれはミス・ミリガンのつぎの言葉をしばしば思い出す。すなわち、「このダンシングは 19 世紀初期の優雅でパレエ的なスタイルを借用している」である。

フットウェア（履物）のかたちも、RSCDS の初期に、1923 年以前のスコットランドのボールルームでは決してお目にかかれなかったものが採用された。ギリ－ghillies（かかとのないソフトシューズ）は各ステップをふむとき、より正確さや上品さを表すことができる。生徒としてもティーチャーとしても、わたし自身の経験と比較して、近年はテクニク的に細部まで強調することがふえている。われわれがボールルーム・ダンサーであることを忘れないようにと、技量向上につねに努力することはすばらしい。しかしながら、テクニクを修正しようときびしい注意がなされても、そこから生まれる最終的なダンシングはつねにどんな注意からも無縁であり、楽で簡単なほうに流れ、とにかく楽しければいい、という姿がある。緊張させ、むずかしく、気分を落ち込ませるようなダンシング・スタイルは、これから SCD をやりたいという人にアピールしないと思う。

90 周年のこの年、RSCDS 役員会は挑戦すべき問題を多く抱えており、とくにカントリー・ダンシングの伝統を増進させようとソサエティ十字軍の最前線に立っているブランチ、アフィリエート・グループはなおさらである。特有な問題を認識しており、それらに立ち向かって果敢に挑んで

いるブランチ、グループに、わたしは激励を贈るものであり、成功を祈っている。

過去から学べる教訓のみが、将来不変の発展を約束することにまちはない。RSCDS も、状況に応じて変化と順応の受け入れをいとわないと確信している。世界に広がるわれわれのコミュニケーションの質を高めるため、技術革新の活用が有利であろうし、RSCDS 内にあるのは、寛容力と包容力の心構えを助長すべきである。過去 90 年に繰り返された問題のいくつかはいまなお、われわれを当惑させるかもしれないが、エイブラハム・リンカーンはかつてこういったのだ。「荒々しいこんにち、おだやかな昔の教義は通用しない。われわれは新たな考えで行動しなければならない」

国境（イングランドとの）を越えてスコットランドにカントリー・ダンスがもたらされたのは 300 年以上も前のことである。その長い歴史を考え、わたしはスコティッシュ・カントリー・ダンスの幅広い歴史的背景に興味をもってきた。同時に、スコットランドにおいてカントリー・ダンスがポピュラーなソーシャル・ダンシングの一形式として並はずれて生きながらえたわけを説明できる、「新たな考えによる行動」があったことも承知している。1923 年、ミセス・スチュワートは「新たな考えで行動」した。1920 年代の初め、カントリー・ダンスは死んではいなかったが、危機的な状況にあった。1923 年以降、RSCDS はスコットランドのダンシング遺産の生き生きとした面を、将来に確実に引き継ぐことを高く掲げてきた。この大志の実現は、しかしながら、選挙で選ばれた RSCDS の幹部に全責任があるわけではない。成果となった多くの事案、成果になるであろう事案は、過去から将来まで、ソサエティの活きている血液である幅広い会員の自発的な努力に依存しているのである。これが、わたしが RSCDS 会員にたいするコメントとして本稿の終わりまで残しておいた理由なのである。

---

会員がこの 90 周年記念ブックを歓迎し、ゴードン・シャンドによるすてきな CD と同じように、そのダンスがカントリー・ダンシングの絶えざる楽しさの一部となることをわたしは確信している。会長として、RSCDS を誠実にサポートしてくれたすべての人に感謝を表わし、また、それらの人たちは将来も同じサポートを与えてくれる

と信じて疑わない。

世界のどこでもスコットランドのカントリー・ダンスを楽しんでおり、90 回目の誕生日を祝っているが、わたしはこのハッピーで愉快的な記念の年、全会員に最大の祝福をおくる。■

---

## 新 CD・Book 紹介

Tom Toriyama

### (1) Book 47 by Gordon Shand and his Scottish Dance Band (CD075) – CD およびブック

Bill Clement MBE (J 8x32), Linnea's Strathspey (S 8x32), Flight to Melbourne (R 4x32, SQ), Aging Gracefully(S 8x32), Vintage Simon (J 5x32), The One o'Clock Canon (R 160), Memories of Mary Ann (S 3x32), Welcome to Ayr (J 8x32), The Kissing Bridge (R 8x32), It wisnae me (S 4x32), Glastonbury Tor (R 8x32), The Mentor (S 96, SQ)

### (2) RSCDS Glasgow 90<sup>th</sup> Anniversary by The Ian Muir Sound (BRCD074) – CD およびブック

Autumn Beginnings (S 4x32), Catching Helen (R 8x32), Fingask Castle (J 5x32), The Merchant City (S 3x32), Moulin Brae (S 3x32), Scotch Broth (R 8x32), Snowdrops in the Glen (R 8x32), Speirs Wharf Hornpipe (H 8x32), The Squinty Bridge (J 5x32), Tribute to Glasgow (J 4x32), Welcome to Glasgow (S 8x32), Woodside (J 8x32)

### (3) The Leeds Golden Collection – ブックのみ

Charles Ogden's Jig (J 8x32), Golden Arc (R 8x32), Shirley's Strathspey (S 3x32), The Leccamore Jig (J 8x32), Jacqui Watson's Strathspey (S 3x32), All the Eights (J 8x32), A Twinkle in his Eye (S 4x32), Nifty Ninety (R 3x32), Scarborough Castle (S 8x32), The Cooper Children (J 8x32), Candyfloss (S 3x32), Jovial Jack (R 8x32)

### (4) Dunedin Dances Book 6 – ブックのみ

St Andrew's Square, Edinburgh (J 4x32 SQ), The Glasgow Reel (R 8x32), Troublesome Threesomes (S 3x48), Merchiston Castle Jig (J 4x32), The Animals Lit up Two by Two (R 4x40), Triskelion (S 3x32 + R 3x32), The Flight of the Teale (R 8x32), The Collingwood Oaks (S 8x32), Swiss Chocolate (R 4x32), Deb's Christmas Cracker (J 4x32), The Badger Dance (R 5x48 SQ), Dunedin Ruby (R 5x40), Culduthel Rant (S 8x32), Vally Sound (J 4x32), The Hot Cross Bun (R 8x32 or 3x32), Speedy Thomas (H 8x32), A Jig for Jim and Joe (J 5x32), Three Score by Four (S 4x32)

RSCDS が創立 90 年記念ブックを作ろうと、未発表、既発表にかかわらずダンスを募集したところ 340 以上のダンスが提出され、そのなかから第 1 次として(1)の 12 ダンスが選定され、出版された。第 2 次のダンスブック Book 48 は選考中で、2014 年に出版される。

さて Book 47 であるが、いずれもやさしいがどこか

に光るものがある、という 12 ダンスである。ひねりのきいたトリッキーなものはダンス会でほとんど踊られないことがない。しかしやさしくて面白い踊りは経験の深淺を問わず好まれている。前者の例が Miss Janet Laing's Strathspey, Genevieve's Jig, Book 43 & 44 の諸ダンスなら、後者の例としては Mrs Stewart's Jig,

---

Cape Town Wedding, Pelorus Jack, Catch the Wind があげられる。前述のとおり Book 47 ダンスは後者で、広く踊ってもらいたいという本部意向が察しられる。というわけで、昨夏わがブランチで予備審査したダンスは一つとしてこの Book に残らなかった。

やさしいとはいえ、なかには説明文だけでは踊りにくいダンスもあり、サマースクールで補足説明された注意点を以下に述べる。

**Flight to Melbourne** 〈メルボーン。メルボルンは日本だけの言いかた〉

Bars 9-16, reels of three の終わり、2C と 4C は curving round せず、パートナーとアイコンタクトしながらストレートで元の位置にもどる。

### **Aging Gracefully**

Bars 12 および 20, both hands turn の終わりはサイドにもどらず、ミドルにいること。

### **Vintage Simon**〈サイモン〉

Bars 1-2 で 1C & 5C はオポジット・サイドまで動く必要はなく(bars 7-8 でも)、ミドルから chasing に移る。

2C & 4C のステップダウンはbars 3-4。1C & 5C の動きを邪魔しないようステップインしながらダウンする。

Bars 15-16 および 23-24 で各コーナーはセットしない。コーナー位置でセットするのは 5C と 1C のダンシングカップルのみ。

### **The One o'Clock Canon**

Book p.14、最終行の third place は誤り。second place が正。bars 129-160、最終の 32 小節はそれまでの 3 回の踊り方とはちょっと異なることをクラスに理解してもらおうこと。

### **Memories of Mary Ann**

CD ジャケットの 8x32 は誤り。3x32 が正。

### **Welcome to Ayr**

Bars 9-16 のフレージングは 3-1-3-1 bars で、

bars 9-11 1C turn once round with 2C

bar 12 1C dance down to 2<sup>nd</sup> place in middle

bars 13-15 1C turn once round with 3C

bar 16 1C move to facing corners

である。

**It wisnae me** 〈イット・ウィズネイ・ミー。wisnae は

wasn't または was not のこと〉

Bars 9-16 の Grand Chain 形式のフレージングは 3 bars で turn 1-1/2 times with RH

1 bar で change place with LH。

Bars 16 の終わりでみな急な change direction を要する。

**Glastonbury Tor** 〈カナ表記は、グラストンベリ・トア〉

### **The Mentor**

Bars 1-4 の RH across、1-1/4 times よりも、むしろ 1-1/4 と 1-1/2 の中間、1-3/8 としたほうがよいように思う。

Bars 9-16 の double reels of four では説明文にもあるとおおり手はとらない。

Bars 25-28 の最終行 turn three quarter は turn once round が正しい。つぎの bars 29-32 で turn three quarter となる。

ゴードン・シャンド楽団の CD、5 人のミュージシャンはみなベテランたちで、そつなく演奏している。ストラスペイ曲目にエアはなく、リール、ジグは遅め、ストラスペイは妥当なスピードの演奏である。余談であるが、クラスで弾いたロバート・マッカイの演奏はとても遅く、リール、ジグでは踊り終了後に疲労を感じるほどであった。というのも、小海弘子さんいわく、Book 47 音楽の編曲者はアコーディオンのジョージ・ミーケルで、音符のいっぱいしまったリールは、アコーディオンなら運指容易だがピアニスト泣かせの譜面とのことで、ゆっくり弾かざるを得ない、とのこと。Welcome to Ayr と Glastonbury Tor が軽快でよい。本稿、踊り方紹介文になってしまったが、前回注文し損ねたかたはこの機会にどうぞご注文を。〔注文略号：Book 47 ブックならびに Book 47 CD〕

(2)は、RSCDS の結成はグラスゴーでなされたので、その 90 年を記念してグラスゴー・ブランチが制作したブックと CD である。(同ブランチの創立は 1928 年)。グラスゴー・ブランチ会員が作ったダンスをまとめたもので、表紙の色は RSCDS カラーのブルー、本の体裁も(1)の Book 47 と類似している。前 RSCDS チェアマンの ルース・ビーティ、ジョン"ヘアピース"ジョンストン、

現チェアマンのジョン・ウィルキンソンなどがダンスを提供している。Autumn Beginnings と The Squinty Bridge でトリッキーな動きがあるが、のこりはやさしいダンスである。全楽譜つき。

音楽はイアン・ミュア（アコーディオン）率いるトリオである。イアン・ミュアは大馬力で演奏するわけではないが、この CD では多重録音を使い、しっかりした音を出している。代替曲はトラディショナル 6 割、モダン 4 割である。どれもなるほどと思わせる演奏で、なかでも Snowdrops in the Glen と Speirs Wharf Hornpipe が楽しい。

〔注文略号：グラスゴー・セット（ブック+ CD）およびグラスゴー・ブックのみならびにグラスゴーCDのみ〕

(3)はイングランド北部のリーズ・ブランチがその設立 50 年を祝して作ったダンス集。残念なことに CD は出されていない。もしロイ・ゴールドリングが存命ならばこのブックにロイ作の何ダンスかは入っていただろうし、ミュージアル演奏の CD も同時に発売されていたと思う。

12 のダンスはどれもひねりのきいた内容で、2012 年の東京ブランチ・ウィークエンドでマービン・ショートが指導したアン・ディックス作の Scarborough Castle も含まれている。当節流行の Set and link three はないが、そのかわり A Twinkle in his Eye にタンデムの Set and link がある。インタミディエット以上のダンサーに適したダンス集である。全ダンスに楽譜がついている。

〔注文略号：リーズ・ブック〕

(4)はエジンバラのダンス・グループ、ダニーディン・ダンサーズが出版したブック。このグループはデモ・クラスといえるダンサーばかりで、主としてジョン・ボウイ・ディクソン作のダンスブックを 5 集まで発行してきたが、ジョン亡きあと

この第 6 集は会員作のダンス集となった。

簡単なダンスもあるが、18 ダンスのおおかたは何年も踊り込んだダンサー向きの内容である。The Animals Lit up …と Deb's Christmas Cracker に Puffin reels なるフォーメーションがあり、これは各コーナーが double reel of four、ダンシング・カップルズが同時に Mairi's Wedding reel をやるというものである。説明文は第 5 集 Reel of the Puffins のタイプセットをそのまま流用する横着をやっている、よくよく考えてやっとなれる書き方になっている。1st & 2nd men と 4th & 5th women が LH across をやる（しかも Reel Time で）というダンスもあり、前述のとおりアドバンスト・クラスのブックである。楽譜がついているのは 6 ダンス。〔注文略号：ダニーディン・ブック〕

\* \* \*

以上の品物のご注文は**注文略号、数量、金額**を明記のうえ、  
郵便振替 00240-0- 63517 東京ブランチでお申し込みください（送料込み）。

Book 47 ブック	¥2,000
Book 47 CD	¥3,000
グラスゴー・セット (ブック+ CD)	¥3,500
グラスゴー・ブックのみ	¥1,600
グラスゴーCDのみ	¥2,700
リーズ・ブック	¥1,500
ダニーディン・ブック	¥1,300

ショップ担当 松木道子 042-475-9054

michikom-bfd@jcom.home.ne.jp

締切り 11月30日(土)

お渡し予定 2014年1月末 ■